

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4090100191		
法人名	(株)かいせい		
事業所名	グループホーム かいせい		
所在地	北九州市門司区錦町4番26号		
自己評価作成日	平成26年1月16日	評価結果確定日	平成26年2月26日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://www.kai.gokensaku.jp/40/index.php?action=kouhyou_pref_search_list_list=true&PrefCd=40
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社アール・ツーエス		
所在地	福岡県福岡市博多区元町1-6-16	TEL:092-589-5680	HP: http://www.r2s.co.jp
訪問調査日	平成26年1月30日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「地域の一員として」「異年齢交流」「ご近所づきあい」「楽しいこといろいろ」をテーマに、具体的に取り組んでいる。3年経過し、少しずつ広がりがつつある。今年度は、北九州市取り組みである、ボランティア事業を積極的に取り入れ、現在4名のボランティアさんが、いろいろなことに協力を頂いている。学童や幼稚園児の訪問もあり、利用者の笑顔を大切にしている。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「グループホームかいせい」は地域で訪問介護、居宅介護を長年営む母体法人が、住み慣れた町で暮らし続けられるように、終の棲家を目指して、錦町に開業されたもので、地域に馴染みのある「かいせい」と名付けられた。住宅街の中にある3階建ての建物だが、屋上では菜園も営まれ、夏には海峡花火も望め眺望も良い。系列の訪問介護も隣で営業しており、協力しあって運営されている。すぐそばにある整形外科とは元々も関わりも深く、医療連携も手厚くとられており、夜間緊急時などもすぐに相談できて、入居者にも安心されている。地域との関係も当初から良好であり、児童の訪問を受けたり、「ハーモニカレク」の地域ボランティアなどは非常に喜ばれ、協力も積極的で毎日何がしかの訪問を受けることも多い。近くの商店街にも気軽に買い物に行ける環境下で日常的に挨拶も交わされている。今後も地域と協力しあって、地域を支える福祉事業所としての活躍が期待される事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	○	1. ほぼ全ての利用者の	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	○	1. 毎日ある	66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
61	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	○	1. ほぼ全ての利用者が	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:32,33)	○	1. ほぼ全ての利用者が	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
64	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:30)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己 外部	項 目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	開所から3年がたとうとしている。当初から入所の方も、加齢とともに認知症状も重度化の傾向にあるが、利用者の「こうありたい」を踏まえ、出来る限り地域との交流の場を設定し、工夫しさまざまな取り組みをしている。	グループホーム独自の理念があり、広報誌にも掲載し、相談室、エレベーターの中にも掲示されている。開設時にも皆で協力して作り上げたもので、毎年外部評価後にも振り返り、見直し、話し合いを行う。入社時に管理者から思いを伝え、ケアにあたる基本的なこととして馴染みを持ち、職員も納得してサービスに活かしている。	話し合いの機会を持ちながら、ケアにつながるように理念を活かしているが、更に共有を進めていくために、会議時に唱和をしたり、継続して思いを伝える機会がもたれていくことにも期待したい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会・幼稚園・小学校・学童など、多くの交流の機会を持っている。消防訓練などにおいては、近隣の方に連絡先になっていただいたり、夜間の火災に対しては、裏口のかぎをお預かり頂くなどして、協力体制を整えている。	地域学童の訪問や幼稚園の入園式に招待されたり、慰問の機会も多い。町内会議には事業所の会議室を提供したり、地域の公民館を借りて文化祭を行ったりと交流の機会が持たれている。日常的にも商店街を散歩して挨拶を交わしたり、毎日何がしかの来訪を受けることも多い。	幼稚園や学童との交流など、地域交流が盛んに行われているが、グループホームや認知症の理解を深めてもらうために、町内会議やミニ介護教室での情報発信などが行われていくことにも今後は期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	当ホームは、中規模スーパー、昔ながらの商店街に隣接し、人通りも多い。道行く人が当ホームを「ご近所さん」と理解し、利用者に向かい声をかけてくださる環境にある。理美容店も近所のお店を利用し、他のお客さんとの交流もある。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月ごとに開催される会議において、その間のヒヤリハットの報告、その他の報告を含め様々な議題を上げ、家族会代表、地域包括センターの代表、地域の代表などにアドバイスを頂き意見交換をしている。	会議では事業所の報告の他に、相談も行われ、アドバイスを活かして、地域との関係づくりのきっかけをもらい、現在の地域交流の発展にもつながった。運営については近隣の他事業者と、半年に1回程度話し合う機会もあり、運営に活かしている。議事録は参加者に送付し、玄関で閲覧できるようにもしている。	活発に意見も出され、運営に活かしている。家族代表以外にも参加を促すために、全員への案内や議事録報告を行ってはどうか。また、他事業所との相互参加を検討することで、より発展的な運営につながることも期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議への地域包括支援センター職員の参加をいただき、直近の問題などを相談助言を頂いている。又、年に2回、門司2地区の同業者との会議を持ち、お互いの情報交換などを包括支援センター職員の同席のうえ行っている。	運営費の取り扱いなど、相談事はこまめに行い、介護保険申請なども窓口にて行っている。日常的な質問などは地域包括に行くことが多いが、介護保険に関しての相談は市役所にFAXにて行う。以前は事業者の連絡会議懇親会と一緒に参加したこともあった。	行政との交流の機会が少ないため、こまめな報告や、事業所連絡会への参加を案内したり、関わりをもって相談しやすい関係の構築が進むことが望まれる。
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	各ユニットの階段、エレベーターには利用者の安全面から施錠をしている。また、個々の利用者への対応は身体拘束の原則に伴い、必要な手順を踏み、ご家族からの理解を得ている。年間研修にも位置付けている。	各階の施錠はあるが、玄関施錠はしておらず、徘徊癖のある方には見守り、付き添いによって外出できるようにしている。家族への説明、了承の上、転落予防の為に四点柵の使用があるが、経過支援記録とともに、毎月見直しを行っている。具体的な事例を扱いミーティングで指導も行い、年1回のマニュアル研修などで声掛けに関しても注意しあっている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定例会議や、研修において虐待防止について職員の意識の向上に努めている。日々の言動、自分では認識できない事例等、スタッフ間での意識付けをしている。(介護技術チェック表)		

H26自己・外部評価表(GHかいせい)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修の機会を設け、制度理解にも努めている。資料やパンフレットなども備え付けおり、いつでも活用できるよう努めている。	年に1回のマニュアル研修や、法人会議でも権利擁護に関して学習の機会を持っている。今までに制度利用された方はいないが、専門家の活用をしたことはあった。説明用の資料やパンフレットは準備され、法人全体で具体的な事例を使った情報共有がなされている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	見学希望時、入所契約時において、パンフレット、重要事項説明書、契約書などを利用し、丁寧な説明を心掛けている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者、ご家族の苦情要望などは、タイムリーに日誌などに記載し、スタッフへの周知を図っている。記録としても、別紙に保管している。また、利用者の日々の様子は、毎月発行する広報紙で、ご家族へ周知している。	毎年開催する家族会には半数以上が出席され、協力的に運営されており、内容もスタッフ会議で共有し、運営改善につなげている。今年から介護相談員の受入も始め、意見を聞き取っている。毎月広報誌を発行して、行事案内や報告を行っている他、個人写真も選別して渡し、日頃の状況も伝えている。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	年2回面接を行い、その年度の本人の目標設定、達成方法を本人とともに、組織への要望などを記入している。	毎月、フロアミーティングと全体ミーティングが開かれ、全員が参加しその月の行事の反省や計画などについて話し合われる。レクリエーションの提案や季節行事など、意見は積極的に取り入れられている。年に2回の個別面談でも管理者と個別に話す機会があり、職員意見の反映につなげている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者はシフト作成時、各スタッフの勤務業務内容に「偏りがなく、計画作成担当者と確認をしている。又さまざまな行事への企画準備、実行等も平等に参加でき、負担にならないように、勤務時間の調整等も行っている。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	男女の差別や年齢差もなく雇用している。休日、休息時間の確保も確実にしている。休日の希望もシフト作成時、各スタッフに確認し出来るだけ希望にこたえられるよう配慮し、働きやすい職場環境を作っている。	20～60歳代の職員がおり、能力を活かしてレクリエーションなどに取組み、レク係は毎月選出し、リーダーと協力しながら、各自が責任をもって企画運用を行っている。研修案内もされ、勤務として参加もされる。個別面談による目標設定などでスキルアップにも努め、職員も安定して業務に余裕も生まれてきている。	
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	高齢者虐待防止マニュアル、身体拘束防止マニュアル、接遇マニュアル等を休憩室に常設し、いつでも振り返りができるようにしている。毎月のスタッフ会議を通しタイムリーに確認している。「介護技術シート」を各スタッフに配布、強制でない研鑽を意識づけている。	マニュアルを活用した内部研修が開かれ、入居者同士や職員間でも行動を振り返って、ミーティングなどで取り上げて話し合いもされている。外部研修参加時は伝達研修により情報共有、資料回覧も行い、昨年も県の人権研修に管理者が参加し、伝達を行った。	

H26自己・外部評価表(GHかいせい)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年2回の面談を通し、目標設定のための方法等を個別に話し合っている。外部研修を受けにくい環境ではあるが「介護技術シート」を各自に配布し自己研鑽に詰められるよう工夫している。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	年2回の同じ地域の同業者との連絡会を通し、抱える問題等の情報交換をしている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に、面接を行い、アセスメントを行い個別の課題や不安を把握するよう努めている。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前のアセスメントにおいてご家族の意向や不安の確認を行っている。ご家族訪問時にも、不安なことが無いかな声かけを行い、不安や不満への配慮を心掛けている。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	アセスメントで把握した情報をもとに、計画作成担当者を中心に、計画を立て担当スタッフへの周知徹底を図り、必要なサービスが受けられるよう努力している。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	アセスメントを通し、出来る事出来ない事を把握する。生活の中で本人が出来ることを見つけて頂く。「役にたっている」という事を実感していただく。無理じいにならないよう配慮していく。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ホームの状況を知っていただくために毎月広報誌を発送している。夏祭り、秋の文化祭にはたくさんの家族の参加があり、共に食事をしていただくなどして、利用者と共に過ごす時間を持ていただくようにしています。		
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	立地条件から、交通の便もよく、家族だけではない知人友人の訪問も多い、近くへの買い物や理美容の利用等、なじみの関係を継続している。	日々、外部からの来訪を受ける機会も多く、友人知人の来訪もいつでも受入れており、気軽に来られるようにしている。遠方の家族とは電話や手紙による支援も行い、外泊支援や一時帰宅をしてもらうこともある。個別ケアによってめかり公園や関内など馴染みの場所に連れて行くこともあった。	

H26自己・外部評価表(GHかいせい)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	この夏、利用者間トラブルが悪化、関係修復に時間がかかった。その原因に、スタッフの声かけが、関係を悪化させてしまったという経緯もある。中立の立場で支援するという事の難しさも経験した。レクレーションや行事への参加の機関など細やかな配慮が必要と感じた。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院し復帰が困難になった利用者のご家族と連携をとっている。今後の不安などにも相談に乗れるよう対応していきたい。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の何気ない一言や、認知症の悪化に手不穩な状況においても観察し、思いを把握するようにしてと対応している。	アセスメントは初回と変更時に行い、ケアチェック表を使って半年ごとの確認も行っている。毎月のフロアミーティングによって日々の情報を共有し、言葉に出ない表情やシグナルを読み取って、本人のペースで生活してもらうことを心がけている。退院時には件会社とも協力し、不穩が続く方にはセンター方式を活用したアセスメントを行ったこともある。	より本人本位のアセスメントを行っていくために、以前扱ったセンター方式の利用が検討されていくことにも期待したい。
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時のアセスメントに基づき、本人らしい生活が送れるように支援し、変化などは都度経過記録に記載している。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎月ごとの行事の予定を立て、出来るだけ変化のある日常をと計画をしているが、認知症の悪化にて、かえって不穩を募らせることもある。日々の状況を踏まえて安定した生活が送れるよう対応している。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者の状況の変化時や、介護保険更新時、その他必要時サービス担当者会議を行い、適切な介護計画を作成し、実践している。	プランの見直し、担当者会議、ケアチェックは半年ごとに行い、モニタリングは毎月行っている。プランに基づいた計画実施表も活用し、日々のサービス実施につなげている。毎月全員分のカンファレンスを行うことで情報を共有し、担当者は家族への報告を受け持っている。事業所全体でプランに関わり、チームケアに努めている。	担当者会議には家族にも参加してもらっているが、プランに関しての伝達を更にこまめに行うために、計画作成担当者による対面での説明や話し合いが定期的になされることが望まれる。わかりやすく伝わるようなコミュニケーションが検討されることに期待したい。
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の生活の様子や、病状の変化時、気付き等を記録、申し送り等を通し、情報を共有し、必要時にカンファレンスを行い介護計画へ反映している。		

H26自己・外部評価表(GHかいせい)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	年間行事としてのレクレーションの企画、個別外出の実施、集団外出レクの実施、家族を巻き込んだ行事などを企画運営するとともに、利用者の日々の状況時に、随時外出をしたり、個別の対応をしている。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣幼稚園、小学校、学童との交流等に積極的に取り組んでいる。社協の行う相談員制度、ボランティアの導入など多方面の取り組みを心掛けている。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医の往診を中心ではあるが、入居前に受診していた医療機関を希望であれば、受診がスムーズに行えるよう家族と連携をとっている。家族が対応困難場合受診同行を行っている。	希望するかかりつけ医は継続してもらい、提携医による内科の往診は毎週、整形外科は月1～4回なされている。通院も基本的には事業所から支援を行い、医療報告が必要なときなどは看護師が同行しても行う。医師との連携や別途情報をファイリングして管理し、家族とも情報共有に努めている。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師は、隔日勤務であるが必要な情報は日誌、看護師との連絡ノート、各利用者の記録で行われている。職員は看護師が作成した看護計画書を理解し病状の変化などに気をつけている。医療機関には看護師による報告がされている。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、病棟関係者や家族との連携を密にしている。また、面会に行くなどし利用者の状況を把握し退院時には、必要な支援をしている。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居契約時には看取りや終末期の対応の説明を行い、本人、家族の希望を確認している。また、必要時には医師看護師を交え終末期の対応の準備がある。	入居時に、終末期にどう対応するか等についての同意書を交わしている。急変時は提携医や看護師が再度説明を行い家族の意思を尊重して対処している。提携医が24時間体制なので、看護師とも協力して終末期の対応も行いたいと思っているが、終末期の取り組みには、スタッフの研修が欠かせないと考えて、取組を進める計画である。	今後は総括的なターミナル研修などを開催し、スタッフの能力を生かした、終末期支援の取組みが徐々に進めて行かれることに期待したい。
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急時の対応のマニュアルを作成して職員への周知を図るとともに、消防救急救命士による研修に参加している。		

H26自己・外部評価表(GHかいせい)

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害対策マニュアルを作成し、職員への周知を図るとともに、消防署の協力のもと自治会長、町内協力者も参加した通報、避難訓練を行っている。夜間を想定した訓練も行っている。ライフラインが止まったことを想定し、非常食、水、カセットコンロ、カセットボンベ、非常用トイレ等を準備している。	夜間想定も含めて、年に2回は消防署立ち合いで防災訓練を実施している。地域の自治会長や近隣住民の参加もあり、緊急時は通報などにも協力して貰っている。カセットコンロも含めて非常食等の備蓄も行っており、年に1回は救急訓練も実施し、職員にAEDや消火器の使用方法などを会得させている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	接遇マニュアルの職員への周知を図るとともに、実際に起きた苦情等を回覧し、会議にかけするなどして共有し利用者の人権やプライバシーに配慮した支援を心掛けている。	年に1回は研修会を実施している。利用者への言葉かけは、常に年長者を敬い丁寧な言葉遣いに気を配っている。人権尊重など関連の新聞記事等は切り抜いておき、皆で読んで参考にしており、配慮に欠ける言動があれば管理者が、その都度指導を行っている。	法人全体での研修会等も計画され、食事介助時の声掛けのあり方や、同じ目線での対話を、どう心掛けていくかなど、更なるコミュニケーションづくりに取り組まれることに期待したい。
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	サービスの開始時に声かけをしている。レクレーション等についてはその都度、意向の確認をし、自己決定をしている。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の生活パターンを把握し、個々のペースに合わせたケアを実践している。しんしんのじょうきょうにあった対応をするように努めている。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	意向に沿って、鏡や化粧品なども自室においてあり、その状況に応じた身だしなみが整えられるようにしている。清潔に配慮し定期的ではなく必要に応じた洗濯を心掛ける。衣類のほつれや ボタンの取れたものへも対応している。理美容も定期的に記録をとりながら対応している。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の能力に応じてお盆拭きや配膳などの準備を手伝ってもらっている。お米は大分県宇佐の山奥の農家より直接購入しおいしいお米を提供している。おやつ作りなどをして、季節を感じられるように工夫している。	惣菜は業者に調理済みの物を依頼し、事業所で加熱している。お米は山間部の農家から購入し、美味しいご飯を提供している。できる方には配膳などの手伝いや、おやつ作りに参加して貰っている。桜など花の季節には、レストランでの食事や花見弁当を楽しんで貰い、文化祭等では家族と一緒に行事食を食べて貰って喜ばれている。検査は職員が交代で月に2回行っている。	
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	半調理済みの給食サービスを利用しバランスの良い食事を提供している。摂取量、水分摂取量を記録し、体重の増減にも配慮している。必要時にはかかりつけ医に相談をし栄養状態にも気をつけている。		

H26自己・外部評価表(GHかいせい)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアの誘導実施を行っている。義歯の洗浄保管、ケア用品の保管にも配慮している。利用者の状況に合わせた口腔ケアを行っている。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェックを行い、排泄パターンを把握しトイレで排泄できるように必要な排泄誘導や気所を行っている。	水分摂取量も含めた排泄チェック表を活用して各人のパターンを把握し、トイレ誘導している。できるだけオムツを使用せず、パットだけで過ごせるように工夫している。声掛け誘導の継続で、声を掛けなくても自力で排泄ができるようになった人もいる。失敗時はさりげなく誘導する等、羞恥心にも気を配っている。自立の進め方等はカンファレンスで職員全体が共有するようにしている。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表にて、排便の有無、形状量の把握し、水分補給、運動を促すようにしている。間隔があいているようであれば看護師に連絡しかかりつけ医に連絡し必要な対応をしている。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	個別のチェック表にて、定期的に、平等に入浴できるようにしている。ADLに不安がある時は、2人対応医療的に配慮が必要であれば、看護師の対応のもと入浴するなど、安全に配慮している。不潔時には、不定期での入浴も対応している。	週に2・3回、10時～15時迄の間でレクや行事に合わせて柔軟に対応している。それぞれの毎日の希望に合わせて入浴できるようにし、夕方でも対応するようにしている。入浴剤は使用していないが、菖蒲湯や柚子湯など季節湯を楽しんで貰っている。拒否される方には、担当を変えたり時間を置いて気分を変える等の工夫をしている。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室やホール、ソファにて休息できるように支援するとともに、湿度や採光などにも配慮し室内環境を整えている。シーツやカバーパジャマ等も定期的必要時に洗濯し清潔に配慮している。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤師管理のもと、服薬チェック表を利用して服薬の漏れや誤薬が無いかに注意している。薬の内容が変わったときには申し送り等で周知している。		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者のしたい事出来る事に取り組めるようにしている。本人のADLや能力にあわせた掃除、洗濯、洗濯物たたみお盆を拭くなど生活の中で出来ることをして頂いている。又個別に趣味に応じた取り組みもしている。		

H26自己・外部評価表(GHかいせい)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出レクを年間計画に入れ具体的な企画運営を行っている。不定期にお天気や本人の希望等で散歩やドライブに行くなどして気分転換を図っている。支援に偏りが無いように外出確認票で記録をとっている。	気候が良い時は近くの公園に散歩に出かけているが、車椅子の使用者が多くなり、ドライブで外出レクを楽しんで貰うことが増えている。門司港レトロのトロッコ列車や和布公園、戸畑の夜宮公園の花見など年間計画を決めて楽しんで貰っている。各自の外出頻度については確認票に記録し、支援が偏らないように配慮している。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	日常的なものはホームで管理しているが、受診時に薬局で嗜好品を購入したりホームで使うものを一緒にお買い物に一緒してもらい支払いをしてもらうなどし、お金に触れる機会を作っている。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人宛の電話の取り次ぎ、電話をかけたいという時には各階の電話を利用していただくなどしている。郵便物は本人にお渡しし希望があれば一緒に返信している。行政からの文書は本人の了解のもとご家族へお渡ししている。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	1Fフロアーには毎週行う習字教室の作品や、行った行事の写真などを掲載し、来館する皆さんに診て頂くようにしている。また、各階フロアーには利用者が作成した作品を展示している。共有の空間や居間は毎日清掃を行い、空気清浄機を設置し清潔な生活の維持に努めている。	木造りのリビング、冬の日差しが暖かさを感じさせる。押し花の絵画や入居者の作品が展示され、広いエレベーターの中に置かれた椅子には、入居者の手編みのモチーフ掛けられていた。壁にはボランティアの作った切り絵の肖像画が貼られ、入居者の表情が生き生きと伝わってくる。屋上は関門の花火大会を見るのに絶好の場所であり、居心地の良さが随所から伝わってくる空間づくりがなされていた。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアーにおいて、ある程度の決まりが出来ている。「いつもの席」で、楽しく食事を楽しんだりおしゃべりをしたりして利用者の様子に配慮してして支援している。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者が自宅で利用していたなじみのものを、持ち込んだり、レクリエーションで作成したフラワーアレンジメント飾など心地よく過ごしていただけよう工夫している。ナースコールを設置いつでも対応できるようにしている。	名札には、花模様のスタンドグラスがアレンジされており、彩を添えていた。テレビや加湿器、冷蔵庫、レンジなど、必要に応じて自由に持ち込むことができる。部屋には、GHで作成された行事毎のアルバムや自作の書初め等の作品が飾られていた。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室前にはそれぞれの利用者ごとスタンドグラスを飾り視覚的にも自分の部屋だと分かるように工夫している。廊下やトイレ、浴室等、必要なところには手すりをつけ安全に生活できるよう工夫している。		